

② 第2委員会

「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」



それでは、第2委員会の意見を発表します。

第2委員会のテーマは「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」です。

そこで、このテーマについて考えるため、^{わたし}私たちは、7月25日に西部医療センターの施設見学を行いました。

そこで、^{わたし}私たちは、病院全体の目標や理念に向かった^{ぎじゅつ}技術や工夫がされていることが印象に残りました。

そして、思いやりや命の大切さがあるから、^{かんじゃ}患者さんの楽や楽しいにつながっているので、素晴らしいと思いました。

また、西部医療センターのひだまりの丘が印象残りました。

そして、室内にずっといて外に行きたいときに、子どもからお年寄りまでの人が楽しめるように、^{かんじゃ}患者のことを一番に思って、その^{かんじゃ}患者の気持ちに寄りそえる感じがしました。

また、生まれてくる赤ちゃんが多いことが印象に残りました。

そして、工夫がたくさんあり、病院が24時間体制で受け付けてくれることが安心できると思いました。

その後、^{わたし}私たちは、施設見学をしてわかったことや思ったこと、感じたことをもとに、名古屋を「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするためには何をすればいいか考えました。

それでは、^{わたし}私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

ぼくは、がんなどが陽子線で治せると聞いて、体に害はないのかと聞きましたが、ほとんど体にえいきょうがないと聞いてびっくりしました。

西部医療^{いりょう}センターは、まちの人から見たらとてもよい病院だなと思います。ひだまりの丘^{おか}もとてもよいリラックス空間だなとぼくは思いました。

○子ども議員

わたしは、西部医療^{いりょう}センターへ行って、命を大切にするための工夫を学びました。

一番印象に残ったのは、ヘリポートにあるエレベーターです。なぜ印象に残ったかというと、階段^{かいだん}で運ぶよりもエレベーターで運んだほうが患者^{かんじゃ}さんへの負担^{ふたん}も少なくなると思い、印象に残りました。

西部医療^{いりょう}センターには、患者^{かんじゃ}さんが一日でも早く退院^{たいいん}できるようにする設備^{せつび}や、不安な患者^{かんじゃ}さんに寄りそう看護^よ師^{かんごし}さんがいると感じました。

○子ども議員

ぼくは、病院見学へ行き、たくさんの命を救うためにがんばっている人の^{すがた}姿を見ました。生きていく上で命はとても大切であり、命を救われることは喜びや笑顔につながるのだと思いました。

命を救われる人は、次に周りの人々を助けるための思いやりの心が芽生えると思います。

こうして思いやりがあれば、命の大切さを人同士でつなげられると思いました。

^{かんきょう}環境づくりのため、身近な生物、弱い立場の生物から思いやりの心を伝えていくことも取り組んでいけたらいいと思います。

○子ども議員

^{わたし}私は、西部^{いりょう}医療センターを見学してきました。医者が100人、^{かんごし}看護師が500人働いている大きな病院でした。

見学した中でも、周産期^{いりょう}医療センターが印象に残りました。ハイリスクの出産も24時間受け入れています。小さく生まれた赤ちゃんや、病気を持って生まれた赤ちゃんも入院できます。新聞で出産できる病院が^へ減っているということを知り、日本の人口が^へ減っている原因^{げんいん}でもあると思うので、新しい命をふやすためにも、出産できる病院がふえていってほしいと思います。

○子ども議員

^{わたし}私が見学しに行った西部医療センターには、たくさんの人を助けられる医療がありました。

^{わたし}私の印象に残った場所もあります。それは、ひだまりの丘です。^{おか}小さい子から大人の方までがリラックスできる場所です。^{わたし}私は、このような場所を名古屋にたくさんつくることによって、思いやりを持てるんじゃないかと思いました。

○子ども議員

西部医療センターには、ひだまりの丘があります。ひだまりの丘は、室内に長くいる患者さんのために、植物を植えたり、リハビリテーションコースが整備されています。ひだまりの丘は、患者のことを思いつくったと思います。

西部医療センターのひだまりの丘のような施設を実際に見学してもらえば、名古屋の人に思いやりを知ってもらえると思います。思いやりの大切さを知ってもらえば、思いやりのあるまちにできると思います。

○子ども議員

私は、西部医療センターで最も印象に残ったものは、ひだまりの丘という屋上庭園です。そこは、患者さんのことを一番に思い、つくったということが伝わりました。それは、ゆかがやわらかくつくられていて、足やこしなどに優しい、階段やスロープがあってリハビリもできるし、散歩にもとても歩きやすいです。

さらに、小さな子でも楽しめるように、小さな家や迷路があって、小さな川には魚もいました。そういう思いやりや優しさがあって、「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」になっていくと思いました。

○子ども議員

私の見学した西部医療センターの中で、私はひだまりの丘という屋上庭園が最も印象に残りました。今のひだまりの丘には、魚や花、木、遊歩道などがあります。ここをもっとよい場所にするためには、雨が降っても散歩できるように、遊歩道の上に雨を防げるものを設置するのはどうでしょうか。

ほかにも、散歩の休憩に患者同士で会話できるようなあずまやを建てたり、病状が少しよくなった子の気分転換になるように、外でご飯を食べられるような机やいすをつくったりするのもよいと思います。

○子ども議員

1300人、すごい数だと思いませんか。この数は、1年間に西部医療センターで生まれてくる新しい命の数です。その命が誕生するまでには、その数より多くの妊婦さんの不安があります。その不安を取り除き、安心へと変え、笑顔にしてくれるのが周産期医療センターの方々です。

そして、小さく生まれた子、病気を持って生まれた子も高い技術で助かることを知り、幸せな気持ちになりました。

私は、そんな「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」名古屋にするためには、西部医療センターは欠かせない大きな存在だと思います。

○子ども議員

生まれてくる赤ちゃんが約1300人ということが印象に残りました。そんなに多く生まれてくる理由は、工夫がたくさんあり、病院の人が助けてくれて安心できると思ったからです。

しかし、もっと赤ちゃんが誕生するためには、みんなが健康で長生きをする必要があります。長生きをするということは、健康を保つことです。健康でなくても、元気な赤ちゃんは生まれてくるかもしれないけど、障害を持って生まれてくるかもしれません。しかし、健康だと、生まれてくる赤ちゃんも元気に生まれてくると思ったからです。

○子ども議員

ぼくは、西部医療センター^{いりょう}に行って、いろいろな工夫を見つけました。例えば、分べん室のかべ紙をピンク色にすることで、温かくやわらかな印象が持てるようにしているところです。

ほかにも、ひだまりの丘^{おか}という屋上を利用したお庭をつくり、環境^{かんきょう}にも患者さん^{かんじゃ}にも優しい空間^{やさ}が整備^{せいび}されていました。

ぼくは、小さな命をたくさんの方が大切に思っていることや、工夫の一つ一つがたくさんの方の心^{こころ}を豊かにしていることを知り、ぼくにもできる工夫を考えたいと思いました。思いやりの目を持って周りを見ていきたいです。

○子ども議員

私^{わたし}は西部医療センター^{いりょう}へ見学へ行きました。そこで学んだことがあります。それは、自分より優先^{ゆうせん}は患者さん^{かんじゃ}ということです。西部医療センター^{いりょう}はひだまりの丘^{おか}など患者さん^{かんじゃ}のためにつくられた道具や施設^{しせつ}がたくさんありました。だから、私^{わたし}はこれらの事を見習^{みまね}っていききたいです。また、自ら親切な思いをこめて人に接^{せつ}したり、人の気持ちなどを考えながら接^{せつ}して大好きな名古屋をもっとよりよいまちにしていきたいです。

わたし

私たち第2委員会は、このようなことが名古屋を「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするために必要だと考えました。

これで、第2委員会の発表を終わります。

■ 北野^{ざいせいふくし}財政福祉^{とうべん}委員長の答弁

まずは、第2委員会のみなさん、大変おつかれさまでした。

われわれ

我々の委員会では、「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」というテーマで3日間取り組んでいただきました。

見学した西部^{いりょう}医療センターでは、赤ちゃんからお年^よ寄りまで大切な命を守る現場^{げんば}を目の当たりにして、みなさんなりにととても多くのことを感じていただけたというふうに思います。

わたし

私が一番感心したのは、みなさんが現役^{げんえき}のお医者さんや看護師長^{かんごし}さんを前にして、将来^{しょうらい}、医師^{いし}や看護師^{かんごし}になりたいと非常に堂々と意思表示^{ひじょう}をしたことでありまして、我々大人も大変おどろきました。将来^{しょうらい}は、そんなみなさんの積極性^{せいせき}を生かして、ぜひとも夢^{ゆめ}をかなえて、多くの命を救っていただきたいなというふうに思います。

そして、先ほどみなさんからありました意見発表、短い時間でありましたが、それぞれみんな、本当によくがんばり、すばらしい発表でした。

思い起こせば、初日に初めて発表したときは、本当にいろいろな意見が出ましたよね。そこでみなさんは人によってそれぞれ意見がちがうことがあることを知って、他人の意見も尊重^{そんちよう}しなくてはなら



ない、このまさにみんなの意見をまとめる難しさというものを一人一人が感じた瞬間でありましたが、そんなときに、子ども委員長と子ども副委員長とで上手にみんなの意見をまとめ上げた姿は、とても立派だったというふうに思います。

このように、さまざまな議論をしながら、みんなでしっかりと考えて、一つの意見としてまとめていくという仕事を我々市議員はふだんしているわけですが、今回みなさんがその議会の仕事をはだで感じていただけて、大変よかったというふうに思います。

今回の子ども市会で体験したことを、家族だけではなくて、広く友達にも伝えてもらって、将来みなさんが成人したときには、積極的に政治参加をしていただくことを心から期待をしています。

また、今回いっしょにみなさんをサポートしていただきました福田副委員長、岡田副委員長、そして指導をいただいた松本先生には感謝をいたしたいと思います。

最後になりますが、子ども議員のみなさんが将来命に寄りそい、思いやりのある社会のリーダーとして活躍いただくことを切に願ひまして、私の答弁とさせていただきます。おつかれさまでした。

